



新製品

モーターコントロール電源ユニット & LP12 モーター

KLIMAX RADIKAL クライマックス ラディカル

¥ 2,860,000 税込 / ¥ 2,600,000 税別



新製品

LP12 強化サブシャーシ

KEEL SE キール SE

¥ 1,045,000 税込 / ¥ 950,000 税別





KLIMAX RADIKAL

クライマックス ラディカル

■ビスポーク設計された UTOPIK パワーサプライ

RADIKAL シリーズ LP12 用電源は、2つの役割を持っています。

ひとつ目はターンテーブルを回す DC モーターの回転制御／駆動、そしてもうひとつが URIKA フォノステージへの電源供給です。これらの異なる仕事のため、KLIMAX RADIKAL に搭載された新型 UTOPIK 電源は、それぞれに独立した2つの専用出力電源レールを備えています。新世代となった UTOPIK 電源が音質的に優れた能力を持つだけでなく、自己制御されたそれぞれの出力レールはお互いに影響を及ぼし合うことはありません。モーターへの電力供給の負荷変動があった場合にもフォノステージへの電力供給の一貫性と品質は不変であり、逆もまた同様です。UTOPIK 電源の優れた品質は干渉されることなく、今までよりもさらにターンテーブル回転の静粛性、URIKA 2 / URIKA 1 の音質を高めます。それぞれに最高の品質が保たれるのです。

■ブラッシュアップされたメイン基板

より正確な動作を求めて、メイン基板を最適化。2つの役割それぞれをスムーズに行うために、アナログ・デジタルにまたがるノウハウを活かし、回路レイアウトを磨き上げています。

■新型の KLIMAX シャーシ

美しく機械加工された最新デザインの KLIMAX シャーシを KLIMAX SOLO 500 に続いて採用しました。このシャーシは、従来型を上回る電気的および機械的な内部の絶縁性能を実現しています。

UTOPIK 電源部は専用に切削されたチェンバーに収められ、分厚いアルミニウムの壁と慎重に考慮されたメイン基板との物理的な位置関係によって優れたアイソレーションを実現。3ピースで構成される約 14kg に及ぶ強固な筐体とステンレススチール製脚部による最新のボディデ構造は、究極のオーディオにとって理想的な基盤となっています。



■ スペック

形式： LP12 専用モーターコントロール&電源ユニット、専用モーター（33rpm/45rpm）
サイズ／重量： W350 x D352 x H88.5 mm / 13.85kg
仕上げ： シルバーアナダイズ、ブラックアナダイズ

■ 価格

¥ 2,860,000 税込 / ¥ 2,600,000 税別



LINN

■ 発売デリバリー

2025 年 11 月

■ 従来型 RADIKAL のアップグレード

UTOPIK -mini アップグレード ¥ 748,000 税込 / ¥ 680,000 税別（英国往復送料込み）

* 従来型 RADIKAL に搭載の DYNAMIK-mini 電源の UTOPIK 世代へのアップグレードです。新型 KLIMAX RADIKAL に搭載の UTOPIK 電源と同じものではありません。

* UK の LINN 工場でのアップグレード作業となりますので数ヶ月お預かりすることとなります。

* RADIKAL-AK にはこのアップグレードは対応できません。

■ 記

本モデルと URIKA 2 及び URIKA 1 とのセット価格はありません。





KEEL SE

キール SE

■最新の有限要素解析による徹底的な改良

2006年に登場したオリジナル KEEL は、超精密金属加工設計によって新境地を開き、KLIMAX LP12 のパフォーマンスに不可欠なまさにキープロダクトとなりました。

KEEL SE では、有限要素解析（Finite Element Analysis : FEA）を用いて、オリジナル KEEL のあらゆる限界を精査。最先端のバーチャル・プロトタイピングと自社開発の高度加工技術を駆使して問題を解決し、優れた剛性、最適化された共振特性、理想的な重量配分を備えた、飛躍的に改良された最高性能の LP12 サブシャーシとなりました。

*有限要素解析・・・複雑な構造物や物理現象を、小さな要素に分解してそれぞれの挙動に関して膨大な計算を行うことで、全体の現象を解析する技術。KLIMAX SOLO 500 の放熱特性もこの技術を使って解析・設計されています。

■剛性と共振特性

KEEL SE に採用されたブレーシング構造は、マニュアルによるものとコンピュータ解析による最適化を融合し設計され、剛性の最大化という最も重要な目標を成し遂げました。

“剛性を 300%増加させる” という途方も無い目標値によって、KEEL SE を伝わる振動エネルギーの劇的な低減を実現しています。この大幅な低減のため、共振の一次モードをオリジナルモデルよりもかなり高い 500Hz に設定（オリジナルモデルは 180Hz）。特別なブレーシングによって、この設定周波数から上の音響エネルギーをスペクトル全体にわたって分散させることで音楽信号への影響を無くしています。

特にターンテーブルの軸となる KAROUSEL のマウントポイントとトーンアーム装着部との間の経路を重点とし、大幅な剛性増加と質量コントロールを強化しています。アームボードやサブシャーシのわずかな揺れ／たわみが、トーンアームとプラッターの物理的関係を変え、スタイラスのトラッキングに影響を与えるため、この領域の強化は特に重要でした。



■優れた重量バランス

剛性向上とともに、各部の厚みと肉抜き量を綿密にコントロールすることでよりバランスの取れた新しい重心配置を実現しました。トーンアーム、カートリッジ、プラッターなどをフル装備した際の KEEL SE ユニット全体は、以前の設計よりもサスペンション上で均等にバランスします。これにより、LP12 の特徴のひとつであるスプリングサスペンションのアイソレーション効果を向上させています。



LINN

■ 仕上げ

KEEL SE の仕上げをより良くするために、トーンアームカラー（トーンアーム固定部）を別パーツとし加工。これによりアームボード部の表面研磨を社内で完璧に仕上げる事が可能となり、アナダイズ処理による黒の美しさを表現することが可能となりました。さらに、本モデルでは LINN ロゴとモデル名（SONDEK LP12）をレーザーエッチングで鮮やかに刻印。印象的な外観としています。

■ スペック

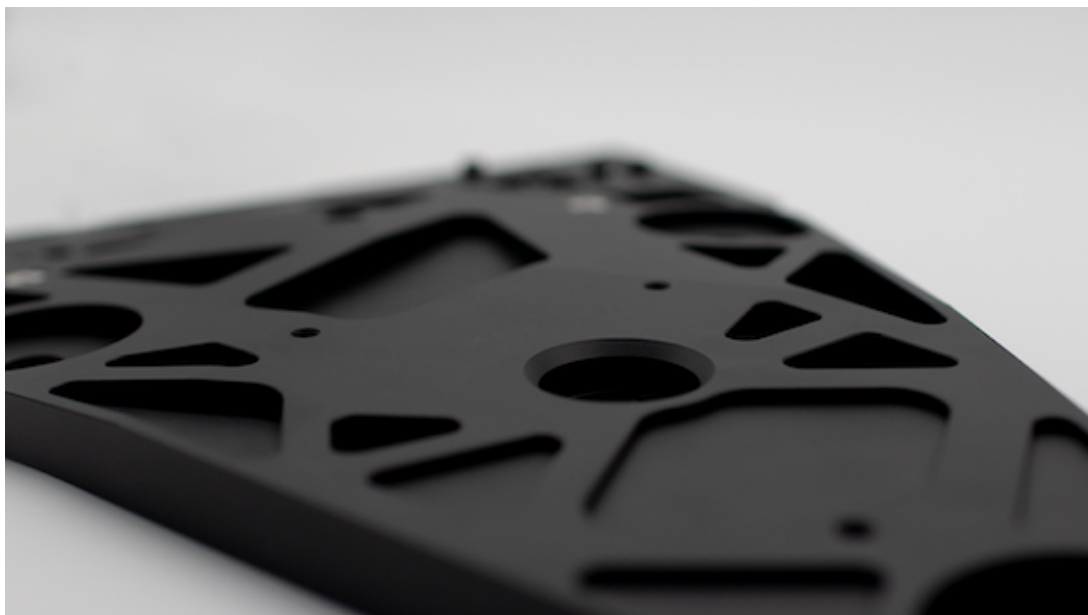
形式： LP12 用サブシャーシ
重量： 2.2kg（従来モデルの約 2 倍）
仕上げ： ブラックアナダイズ

■ 価格

¥ 1,045,000 税込 / ¥ 950,000 税別

■ 発売

2025 年 10 月





LINN

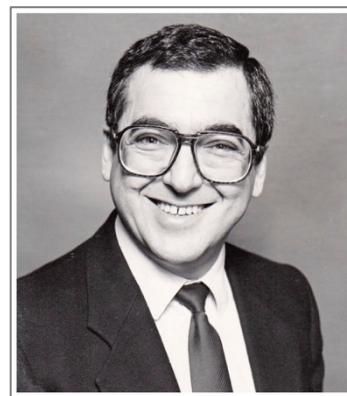
STORY

**Stop throwing away your vinyl records;
you haven't heard what's on them yet!**

-Ivor Tiefenbrun 1989

レコードは捨てないで、
あなたはそこの中に何かがあるのかまだ聴いていないのですから！

— アイバー・ティーフェンブルン 1989 年



— 常に最上であり続ける圧倒的なベストセラー —

1973 年に LINN PRODUCTS を誕生させたターンテーブル「SONDEK LP12」。

その生みの親であるアイバーが、現在これほどレコード再生が盛り上がりを見せていることを当時想像できていた...とは思えませんが、世間が CD に移り変わっていった 1989 年、上記の印象的なメッセージを残しています。間もなく 50 年を迎えるこのターンテーブルは、ますます力強く進化し、我々に「レコードの中に入っている真実」を明らかにし続けています。

— レコードを静かに美しく回すことが最優先事項 —

ターンテーブルとベアリングシステムの工作精度により、最高水準の滑らかな回転を手に入れた LP12。

この頃から長らくターンテーブルの動力源を担っているのは AC モーターです。➡
電圧によって回転数が変化する DC モーターは、停止状態から規定回転数に向かってアクセルを踏み回転数を上げ規定回転数に達したらアクセルを緩めるという「正確に規定回転を保つことが難しいシステム」であり、電圧ドリフトによって回転数に変動が起こらない AC モーターが当時アイバーの求めるものであったわけです。



LP12 は、水晶発信によってよりノイズが少なく正確なサインカーブを生成する外部電源 LINGO を 1990 年にラインナップに加え、現行の後継モデル LINGO 4 に至るまで AC モーターの採用を続けています。

— RADIKAL とは —

2009 年に最上位機種として誕生した RADIKAL power supply。「根本的な」という言葉から名付けられたこの製品は、それまでの LINN の伝統を覆すものでした。

AC モーターを採用しつつも、カートリッジに直接的に大きな影響を及ぼす「モーターからの磁束漏れ」の多さを気にかけていた LINN は、画期的な DC モーターのシステムを発表します。DC モーターが持つ磁束漏れとコギングの少なさを生かすため、KLIMAX DS 開発の過程で得た高精度クロックとデジタルプ



LINN

ログラミング・テクノロジーを大胆に活用し、繊細な回転コントロールを可能にした RADIKAL は LP12 の歴史においてまさに“根本的な”進化となったのです。

約 80V の交流電流をプレーヤー上のモーターまで引き込むことになる AC モーターに比べ、200mV という桁違いに低い直流電流で動く本 DC モーターは、すぐ脇のリード線に流れるカートリッジからの微細な出力信号に干渉しない大きなメリットもありました。

— 進化する RADIKAL —



■モーター制御

初代モデルは CPLD（コア・プログラマブル・ロジック・デバイス）で制御を行い、アナログ基準電圧＋デジタルポテンショメーター（ステップボリューム）による電圧調整を行ってきました。センサーからのフィードバックを元に段階的に回転数の調整を行う方式です。この方式では、ドリフトの可能性を各ポイントに残しており、他のターンテーブルに比べれば比類のない正確性を実現しているものの、乱れのないモーターコントロールに改善の余地を残していました。

第 2 世代以降の RADIKAL は FPGA（フィールド・プログラマブル・ゲート・アレイ）と DAC を組み合わせ、ドリフトの影響を受けず極めて安定してクリーン、そしてモニタリングされるセンサーの計測結果に応じた高速応答でのモーターコントロールを可能にしました。一度設定された回転速度は、フラッシュメモリーに保存され、次の起動時に即時適用されます。FPGA によって描かれるコントロールシグナルは精密で「囁く様に静かな」駆動力となるのです。



■DC モーター

第 2 世代以降の RADIKAL は初代機よりもさらに静かな音響特性を持つ DC モーターを採用。モーターハウジング素材アセタルに、より確実な LP12 本体との取り付けを可能にする金属製のインサートを追加しています。

■電源部

2006 年 Brilliant Power Supply を搭載して誕生しましたが、2009 年に Dynamik Power Supply の誕生によりアップグレード。第 3 世代となる KLIMAX RADIKAL には、いよいよ専用設計の UTOPIK Power Supply を搭載。新方式では、モーターコントロール部用とフォノステージ用のふたつの出力電源レールを装備。飛躍的なアップグレードを遂げています。



2025 年 10 月 10 日

株式会社 リンジャパン